彼女が
堕ちた
理由

サークルの先輩にお持ち帰りされたぁ!?
ごめんなさい……
僕が高校時代から付き合っている彼女は
理由はそれだけじゃないんだけど……
きっかけはそれっていうか
なぜか大学に入ってからずっと俺を避けていた
全然話せないうちにもう別れたいとまで言い出したので
別れたいです
ごめんなさい
彼女の家を訪ねて直接話を聞いたところ
サークルの新歓でヒロキという男と一夜を共にしてしまったことが原因だと告げられた

ごめんなさい
中々言い出せなくて
そんなひどい出来事が
あったんなら仕方ないよ
でもなんで
別れたいって……
嫌々されたわけだし
優華に非はないでしょ
それなら俺は
別れる気ないから
嫌々とかじゃ
なくてね――
その時の話を
全部聞いたら多分
別れたくなると思う
だからって言わないまま
付き合うのは無理かも
彼女が他の男と
ヤった事実を
受け入れろって？
しかも俺とは
まだなのに
でもここで別れたら
今まで付き合ってきたのが
バカみたいじゃないか
じゃあ全部
話して……

サークルの新歓に行って
気付いたら裸で
ヒロキさんの家にいました
あのっ
私酔っちゃってて
記憶が曖昧で
ここまで来て
やめるの？
私はっ
彼氏がいるのでっ
だから
これ以上はっ
度数の高いカクテルかなんかを
飲まされたのかもしれないです
ヒクッ
ビク
ビク
ビク
くちゅ
くち
へー
彼氏とはもうシた？
えっ？
ま、まだです……
なんで？
そんなの……
あなたには
関係ないですっ！
後ろから抱きしめられて
身動きできない状態の私は
ずっとあそこを
責められていました
ガク
ガク
くちゅ
くちゅ
くちゅ
くちゅ
くちゅ
くちゅ

ビクンッ
こんなにおっぱい大きいのにもったいない
おっ？
俺だったら毎日エッチしてあげるのになあ
ふーーッ♡
くちゅ
ヒロキさんはかなり女慣れしてそうで私が嫌いなタイプでした
コリコリ
そんな――
無理矢理されてイったりなんかしないですっ
ガタ
ぐちぐちぐちゅ
イっちゃった？
きゃ――っ♡
コリュッ コリコリ
驚くほど簡単にイかされましたがせめてもの抵抗でイってないふりをしたりしました

当然無駄な抵抗だったと思います
じゃあ続けるね
イった後もクリを責められ続けるのはすごく辛くて
ほらちゃんとイくまで頑張って
刺激が強すぎて全然イけないのに手を止めてくれず
ヒロキさんはそれで悶える私を見て楽しんでいました
もうやめてください
本気でイくまで絶対やめないよ

キスされながら
クリを撫でられたときは
頭がおかしくなりそうでした
イってる
のにっ！
そのままヒロキさんの
気が済むまで徹底的に
責められました

やっと終わったと思っても……
ぱぁ
まだ息吸っちゃだめだよ
じゃあまた足開いて
あのっ実は私さっきイってて——
もう体が変なんですっ
うん知ってる
せめてちょっと待って——
私の弱いとこ探してるっ

必死にやめてと懇願しても無駄で――
優華ちゃんはこの辺かなー
もうイくのやだぁっ！
またすぐに動けない状態での愛撫が始まりました
あーはいはい
今日初めて会った男の指で簡単に気持ちよくなっちゃって
こんな姿彼氏には見せられないね
なにこれぇっこしがへんになるぅっ！

ぞくっ
逃げられないので
とりあえず声を我慢して
耐えようとしましたが――
ぞくっ♡
フーッ♡
フッ♡
フーッ♡
フーッ♡
びくっ
びくんっ♡
!?
んーーッ♡
ん―――ッ
黙ってイくのダメだよ
ぐにっ
ぐにぐにっ
ぢゅこぢゅこぢゅこぢゅこぢゅこ
ぐっ
おい 腰逃がすなって
ゴリ
ゴリ
グリッ
ゴリュッ
ゴチュッ
おもちゃで遊ぶみたいに
私のきもちいとこだけを
無慈悲に責められ続け

もう無理
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅっ
ぐちゅ
あーあ
こんなに出したら
ベッド汚れちゃうじゃん
ぐっ
ぐっ
ぐっ
声も全く
我慢できてないし
ごめんなさいっ
ガク
ガクッ
プシュッ
ピクッ
ずりゅっ
んおおおっ
結局情けない格好で
潮吹きさせられました

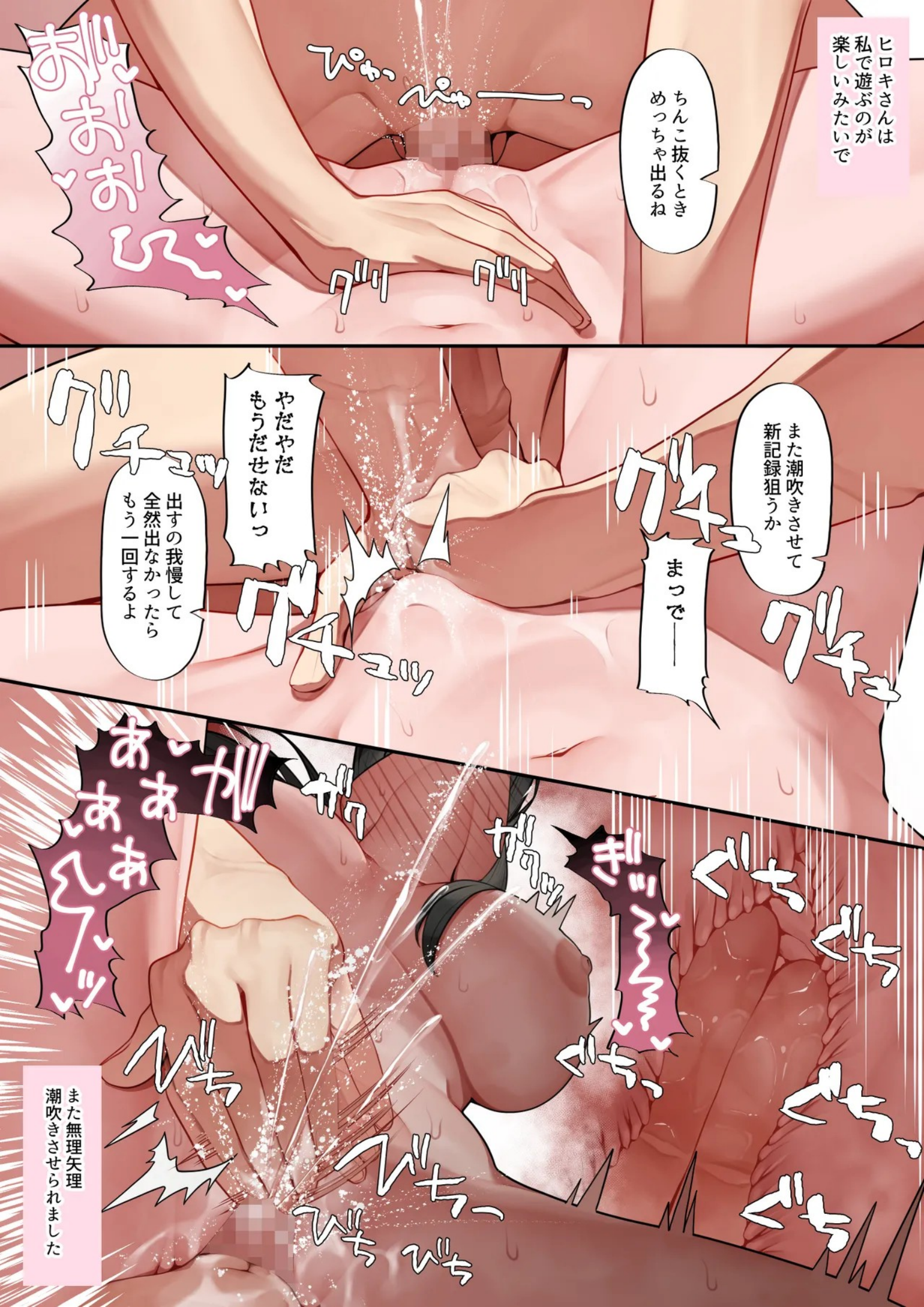
そろそろちんこ挿れていい？
イヤならこのまま続けるけど
イヤじゃないですっ
クリだけはもうゆるじでっ！
それで女としての恥とかプライドみたいなのは完全になくなり……
こうすりゃ大抵言うこと聞くからね
挿入するときに抵抗されるとだるいんだよな
何をされても受け入れるしかありませんでした
えっ？これが入るの？
ちょっとまっ――
初めてなら結構きついかもなー
う――っ

ズプリ
まずは手前から気持ちよくしてあげるね
ぎゅっ♡
ぎゅっ♡
ビクビクビクッ
ビクッ
ヒロキさんに指で念入りに弄られたせいか痛みはあまりなく
ぬちっ
俺が先にヤっちゃって彼氏に悪いねー
あっあんっ♡
ぬちゃっ
ぬちゃっ
ぬちっ
俺のちんこに夢中で彼氏とかどうでもいいか
ちっ…ちがうからぁ!
ぬちゅ
ぬちゅ
んっ♡
むしろただ気持ちよくなっちゃってました
ぬちゅっ

よくわかんないですッ！
びくっ
びくんっ
あ
あ
カリでGスポットを擦られるのどう？
本当に？じゃあー
すちゅ
すちゅ
すちゅ
すちゅ
すちゅ
すちゅ
すちゅ
すちゅ
ゴリ
ゴリ
ゴリ
ゴリ

ビクーン
んぐふぅぅぅ♡
おなか押すのは？
ビクッ
ビクッ
はやく答えて
だッ……ダメですっ！
こんなの――ぜったいだめっ
なるほどね
どうやら私はおなかも弱点だったみたいで
当然ヒロキさんは私の弱いところを狙って突いてきました
こうすると奥にちゃんと当たるでしょ
むりむりッ！もうイっ……

奥ぐりぐりされて
イくのとまんないねー
優華ちゃんのまんこ
マジで当たりだわ
勝手に何度もイって
ビクビクし始めるし
ちんこに吸いついて
全然離してくれないし
ヒロキさんは
私がイっても
全く気にしません
もぉ
やめでッ！


ヒロキさんは
私で遊ぶのが
楽しいみたいで
ちんこ抜くとき
めっちゃ出るね
おぉおおひぐ
ぴゅぴゅ
グリ
グリ
また潮吹きさせて
新記録狙うか
まって——
やだやだ
もうだせないっ
出すの我慢して
全然出なかったら
もう一回するよ
グチュッ
グチュッ
グチュッ
あぁあぁあぁ
ガクッ
ガクッ
ぎぃ
ぐちぐち
ぐちぐち
びちっ
びちっ
びちっ
また無理矢理
潮吹きさせられました

もうイかせるのやめてくださいっ
なんでもいうことききますっ——
ビクッ
優華ちゃんの都合とかどうでもいいんだよね
てかどうせイくの我慢できないし言うこと聞くしかないでしょ
やっ……やめっ——
トントン
ぴゅ〜ッ
ビクッ
ビクッ
ヒロキさんの容赦なさになぜだかおなかがうずくのを感じました

バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
バコッ
かりあり〜
しんじゃう
しんじゃう
えーこの程度で？奥ザコすぎでしょ

そのあと10分ぐらいイった状態から戻してくれませんでした
もうちょっと遊んであげたいんだけどね
たんっ
たんっ
たん
たん
たん
流石にもう我慢できないな
ナカに出すよ

中に出されるのは
なんとか拒否しようと
しましたが
中はダメですっ
ぬいてくださいッ
今さら
何言ってんの？
ズチュ
ズチュ
ズチュッ
あッ
ぁぁ
ビクッ
ビクンッ
ごめんなさいっ
ごめんなさいッ
中出しして欲しく
なったら言ってね
それまでずっと
クリで遊んどくから
きゅんっ
ビッ
ビッ
ぐちぐち
ぐちぐち
ぐちぐち
プシュ〜ッ
ヒロキさんに好き勝手
遊ばれてただけの私では
勝てるはずもなく

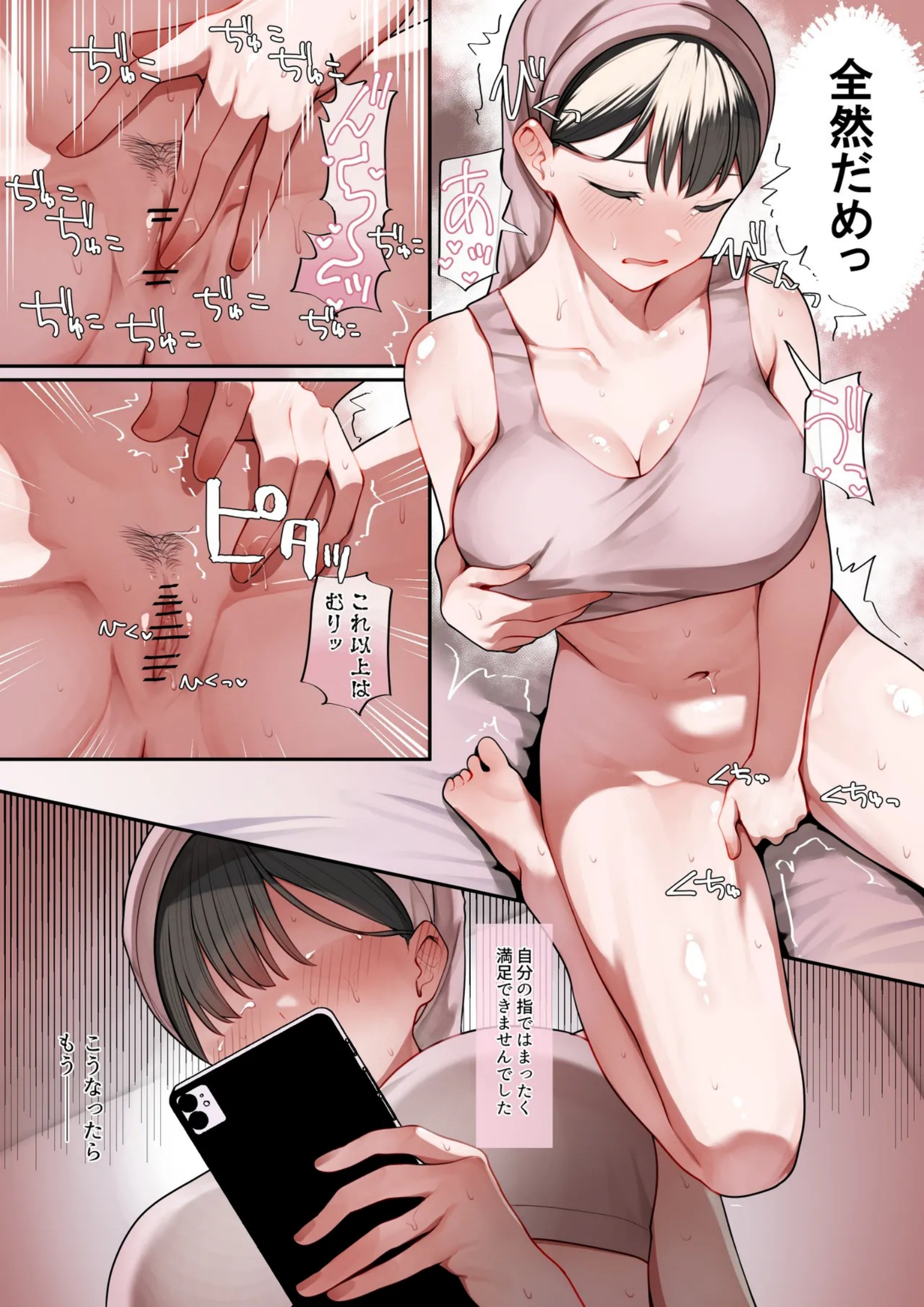
すぐに中出しを
必死に懇願する
私がいました
ちゃんとお腹に
力入れて
むりむりむりっ
はやぐだしでぇっ
ぱんっ
優華ちゃんが奥で
イくまで出さないよ
しょんなっ
ぱん
ほらお腹トントン
してあげるから
トン
トントン
クリもゴシゴシ
してるよ
ゴシゴシ
ゴシ
ぐりぐりぐり
キュン
キュンッ
キュン
お"っ
お"っ
ぱんっ
ぱん
ぱん
ぱん
ぱんっ
ゴシゴシ
ゴシ
ヒロキさんのために
頑張ってたくさん
イった気がします

イきましたっ
もうイって——
ゅ"っ
か"お"っ
パンッ
パンッ
パンッ

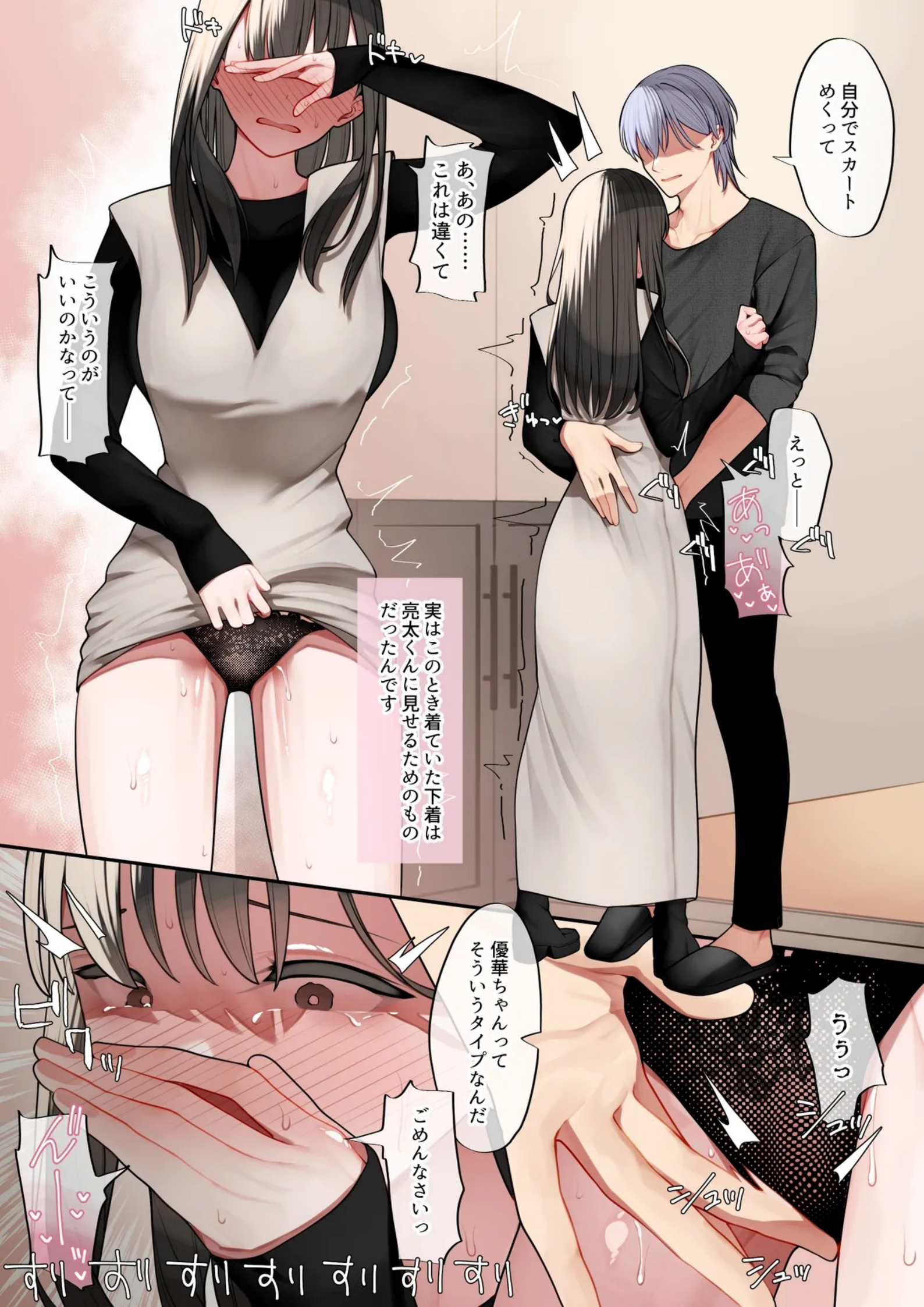
あ///
ビュルルルッ
ビュー///
ビュルッ
もうおわりですよね
ガタ
ガタッ
全部出るまで我慢して
あっ♡
それで全部ナカに出されてしまいました
ビュルルッ
ビューッ
ガタ

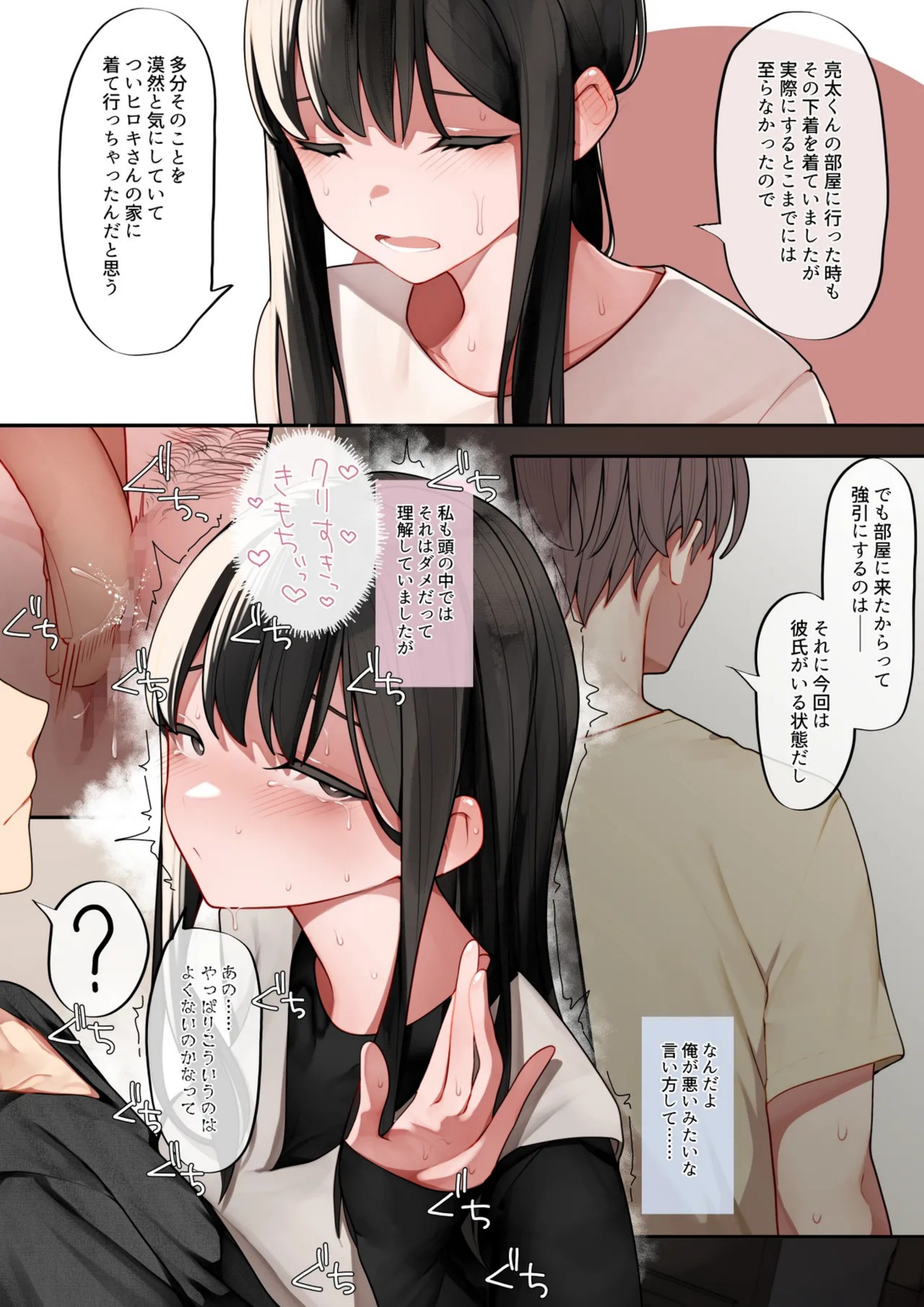
そんなとこまで……
ぶるぶる
ぶるぶる
えっと――
それでそのヒロキさんとのアレは終ったんだよね！
うん
その日は一応――
想像以上の話だ
正直言って
聞きたくなかった
!?
えっとね
まだ終わりじゃないの
えっ？
実はそのあとが問題で――

その日から毎晩
ムラムラが抑えられず
長時間の自慰をしてしまう
ようになりましたが――
ムズ
ムズ
んっ
べくんっ
お――っ♡
コリ
コリコリッ
ずり
ずりっ
ずりっ
お
ガクッ
ガクッ
ガクッ
はぁっ♡
はー――っ♡
はー――っ♡
きゅう～～～っ♡


全然だめっ
びくっ
あッ
びくんっ
うぅ
ぐりぐりぐりっ
ちゅこちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ぴくっ
これ以上はむりッ
ぴくっ
ぴくっ
くちゅ
くちゅっ
くちゅ
自分の指ではまったく満足できませんでした
こうなったらもう――

ヒロキさんに誘われて
断ることができず
また家に行きました
それで
何の用ですか？
オドッ
オドッ
ヒクッ
なに
とぼけてんの
っ!?
どうせこれ
目的のくせに
あっ♡
まって♡
今回は好きにされても
文句は言えません


自分でスカートめくって
ドキ
ドキン
あ、あの……これは違くて
こういうのがいいのかなって——
えっと——
あっりぁ
実はこのとき着ていた下着は亮太くんに見せるためのものだったんです
ビクッ
ん〜
すりすりすりすりすりすりすり
優華ちゃんってそういうタイプなんだ
ごめんなさいっ
ううっ
シュッ
シュッ
シュッ
シュッ


亮太くんの部屋に行った時も その下着を着ていましたが 実際にするところまでには 至らなかったので
多分そのことを 漠然と気にしていて ついヒロキさんの家に 着て行っちゃったんだと思う
でも部屋に来たからって 強引にするのは――
それに今回は 彼氏がいる状態だし
私も頭の中では それはダメだって 理解していましたが
クリすきっ♡ きもちぃっ♡
ぐちっ
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち
なんだよ 俺が悪いみたいな 言い方して……
あの…… やっぱりこういうのは よくないのかなって
?
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち
ぐち

こういうのって？
トントン
トントン
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちぐちゅっ
ひぎぃッ
ビクンッ
お――
おんなのこをっ！
ぬちゅぬちゅっ
こんな
むりやりにっ
はーっ
はーっ
うんうん
でもさ――
ぬちゅぬちゅ
ぬちゅっ
ビクビクッ
無理矢理されるのが
好きだったからまた
俺のとこ来たんでしょ？
ドキッ
優華ちゃんって
押せばいくらでも
ヤれそうだったしね
ちがっ――
ブル
ブル
うぅぅ
グチュ
いいから
腰引くなって
グチグチュッ
グチュッ
グチュッ
ごめんなひゃいっ

ヒロキさんの有無を言わせない物言いと責め方ですぐびしょ濡れになってしまい
キスしながらクリ責めすきっ
やっぱちょろいね
汁止まらないけどどんだけマゾなの？
そんな言い方やだぁっ♡
ピュルッ
ピュッ
あっ
カリッ
カリ
カリ
カリ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
ちゅこ
じゃあベッド行こうか
ふぁい……
心の奥底では強引にされることを望んでいるのだと分からせられました

ベッドで最低限の衣服だけひん剥かれた私は再びヒロキさんの調教を受けました
すりゅっ
すりゅ
すりゅ
すりゅッ
でもどうせクリ弄っただけでしょ
ナカのこの辺とかしっかり弄らないと
ごめんなさっ——よくわがんなぐでっ
じゃあ覚えるまでやるから
あれからオナニーはどれくらいした？
まっ——まいにちですッ
くちゅ
ぐちゅ
ぐちゅっ
ぐちゅッ
コリッ
コリ
コリ
コリッ
ビクッ
ヘニっ
キュンッ♡
キュン♡
ポチャ
ポチャッ
ふーっ♡
ふーっ♡
ぐ〜〜♡
おもちゃを使って私のお腹側のところをひたすらなぞり続けてきたので
オナニーのおかずは？
ヒロキさんとのせっくすですっ
彼氏のことは考えないの？
ヒロキさんのことだけですッ
うわー彼氏くんかわいそ
もうイっ——
ゴリッ
ゴリュッ
ゴリュッ
ゴリュッ
ゴリュッ
ビクンッ♡
ビクッ♡
くに
くに
くに
くに
んおおっ♡
嘘をついて取り繕う余裕などなくただ快楽に耽るだけでした

ブリブリブリブリ
こしおすのやだっ
ぐちゅぐちゅぐちゅ
びくんっ
あ♡
イってる！イってるってばっ！
ぐちゅ
なんでクリばっかりっ
ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅ
あー出た出た
おぉ♡
ビュ

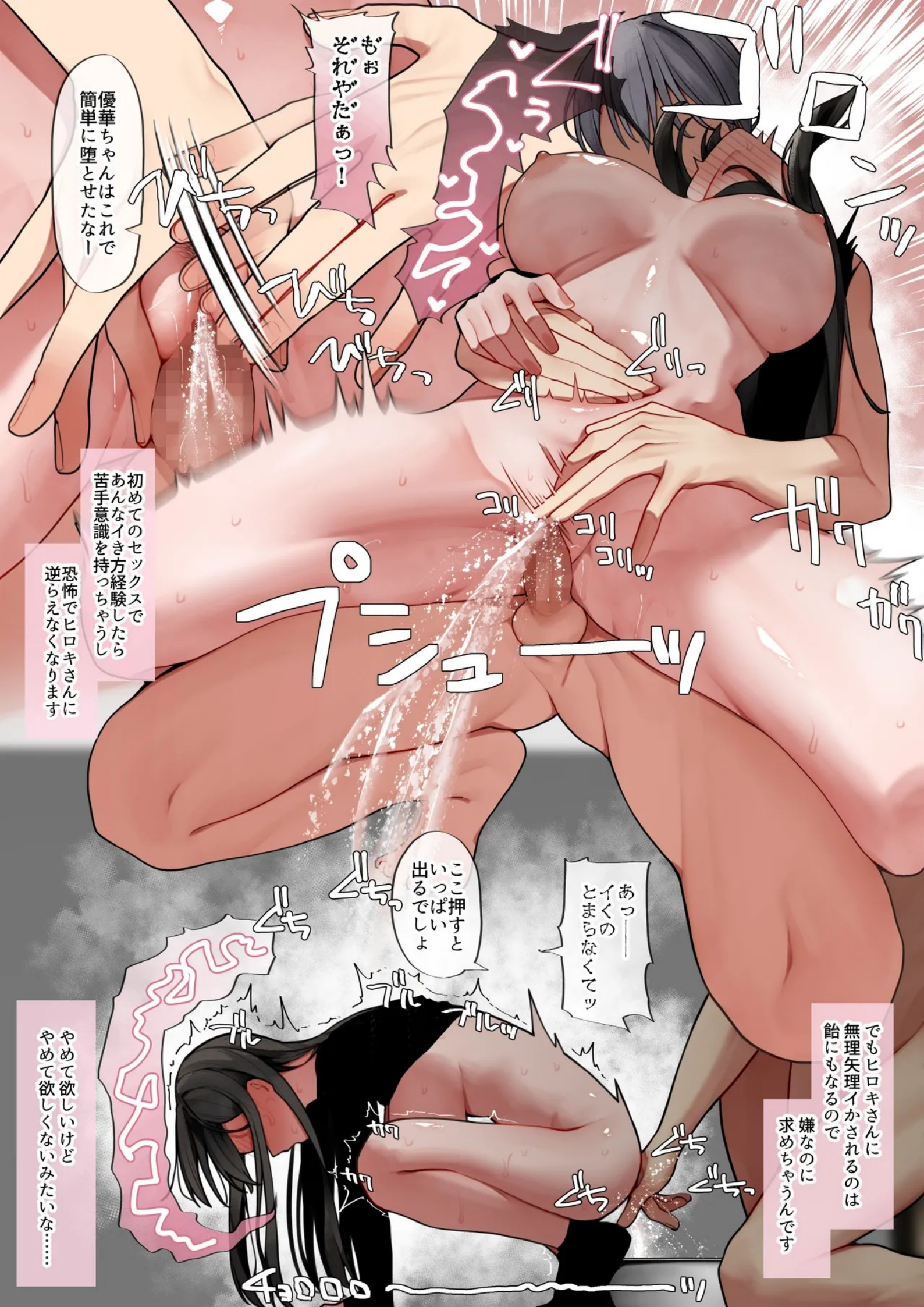
風呂桶があったせいで
余計にたくさん潮を
吹いてしまいました
ぴゅるるるッ
ビクッ
んぎぃっ
ビクンッッ
ビクッ
ビクッ
ぴくっ
ぴくっ
あっ
んっ
でもこんなエロいくせに
童貞の彼氏がいるって
今更手を出されるとか
あったらムカつくなあ
あッ
へこ
へこ
ちょろ
ちょろ
それでヒロキさんは私と
セックスをするだけでは
満足しなくなったみたいで

もう俺専用のオナホなんだから彼氏振ってきてよ
ほらこれ目当てで今日来たんでしょ
彼氏と別れてほしいと言われましたが……
今だってもっと奥まで欲しくて
自分からケツ押し付けてるしさ
でもっ――嫌いになったわけじゃないし言っても別れてくれないかも……

じゃあ
彼氏にこのこと
全部言えば？
おごごっ
コリッ
コリッ
コリッ
コリッ
彼氏以外とセックスして
馬鹿みたいにイきまくった上に
それが忘れられずにまた
男の家に犯されに行ったって
グチュッ
グチュ
グチュ
そんなの
言えないっ
ビクッ
フー
フー
フー
ムニュ
ムニュ
俺とのセックス以外
想像できないんでしょ？
優華ちゃんが彼氏に
それを伝えたら互いに
気付くんじゃない
さっさと手を出しておけば
一夜の過ちで済んだかもって
どういうっ——
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぱん
ぐぅぅっ
ぐぅぅっ
おぁっ
おぁっ
カリ
カリ
カリ
ぱちゅんっ
ぱちゅ
最初は理解できなかったけど
今はちょっと分かります

私が逆らえないのは
快楽なんかじゃなくて
ヒロキさんそのもの
だったんです
あっ
乳首でイくっ——
でもそっちの方が
いいならっ
今度別れるかもっ……
しれないですッ
やっぱり優華ちゃんは
俺の言うことなんでも
聞いてくれるね
どれだけ言い訳しようと
結局彼の命令に
従ってしまいます
ただこっそり乳首で
イくのはだめだよ
前に俺と
約束したでしょ？
ちがっ——
わすれててっ
じゃあもっかい
躾けたほうがいいね
これやばッ
私の初めてを
奪ったときに
徹底的に主従関係を
刷り込んだのでしょう

まっで！
奥まで当たるよう
お腹反らして
お腹トントンしたら
勝手に力入るでしょ
ドチュッ
ドチュッ
たん
たんっ
あっ——
あのっ
これだめですっ！
つまり私にとってのセックスは
最初から躾の一環でしかなく
恋人のように
対等な相手とは
想像できないものです
おなかは
むりぃッ
トントンッ
ヒロキさんは
飴であるはずの快楽を
鞭としても使うことで
私を従順なペットに
変えようとしました
ビクンッ
ビクッ
ビクビクッ


もぉ
ぞれやだぁっ！
優華ちゃんはこれで
簡単に堕とせたなー
初めてのセックスで
あんなイき方経験したら
苦手意識を持っちゃうし
恐怖でヒロキさんに
逆らえなくなります
プシューッ
あっ――
イくの
とまらなくてッ
ここ押すと
いっぱい
出るでしょ
でもヒロキさんに
無理矢理イかされるのは
飴にもなるので
嫌なのに
求めちゃうんです
やめて欲しいけど
やめて欲しくないみたいな……

だったらもう
言いなりになるしか
ありません
そのまま
仰向けになって
コクッ
ぶーっ♡
さっきからまんこの
締め付けがすごいせいで
俺もそろそろ
やばいんだよね
ユサ
ゴッ
それやばい
かもですっ
ビクンッ
ビクッ
いっしょにッ――
はいはい
すきっ
すきですッ
ぱんっ
ぱぁーうん
そろそろ出すわ
ヒロキさんみたいな乱暴な人に
無理矢理されるのが
私は好きだったみたいです
セックスしただけで
簡単に堕ちちゃいました

都合のいい穴だと
思われているのでしょうが
ビクンッ
ビクッ
まじ優華ちゃん
最高だったよ
俺もエロい女は
好きだからさ
次は優華ちゃんちで
ヤろっかなー
干からびるまで
潮吹きさせるから
シートでも買っといて
ドクッ
ドクッ
くちくちくち
私にはヒロキさんしか
考えられないので
どうすることもできません

私にこんなことを
言わせているのも

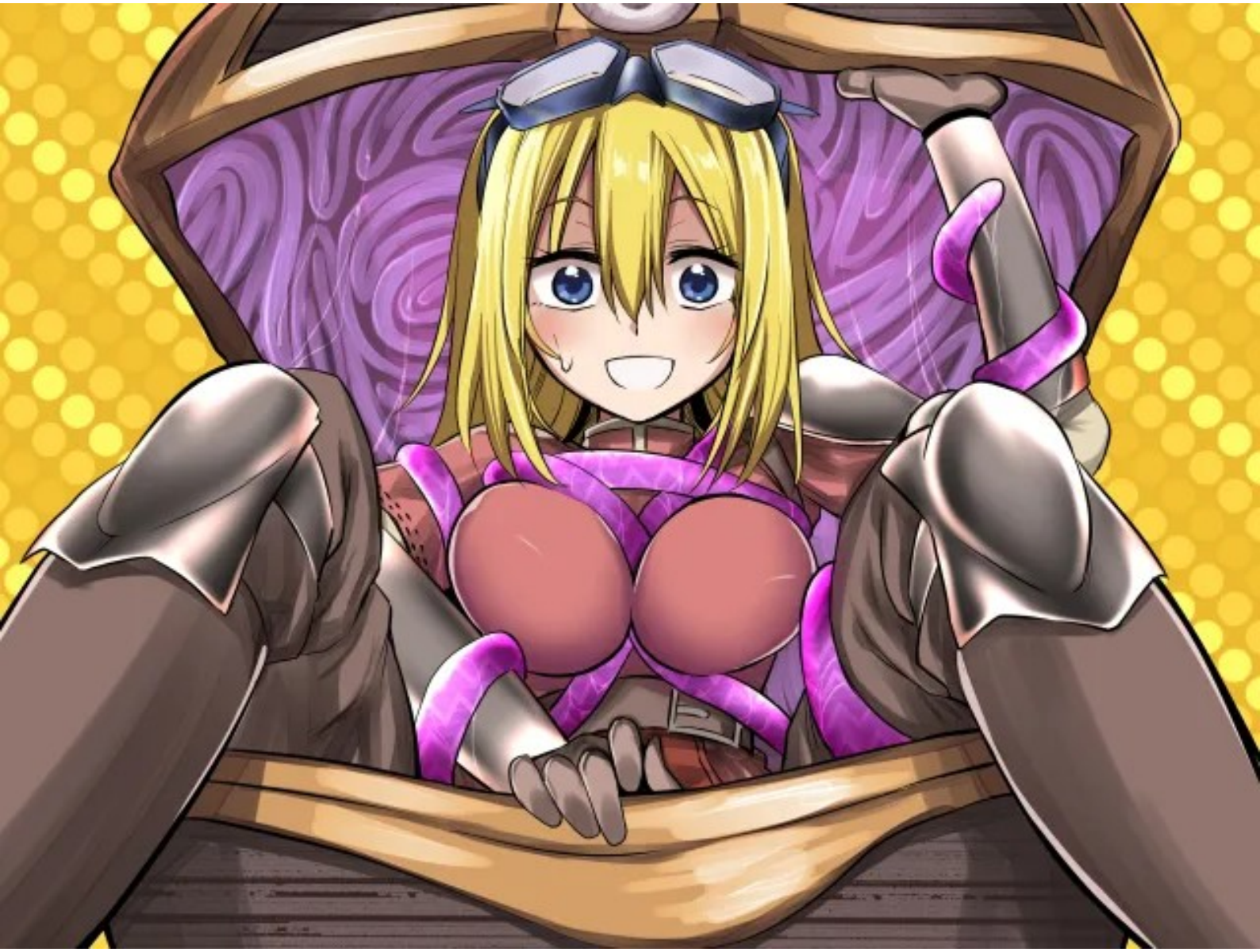
亮太君という
逃げ道を完全になくして
より彼に依存させる
ためなんだろうなって

単に私を弄んでいる
だけかもしれないけど……

どちらにせよ
別れたいというのは
私の意思でもあるの

優華は清楚な女の子で
性的なことを
嫌っていると思ってたし

無理矢理になったら
絶対嫌われると思って
手を出せずにいた

それなのに優華は……

もはや何も言えず
別れを受け入れるしか
なかった……